



帝京大学小学校 校長 石井卓之



## 「昭和で盛り上がる」(職員室の1コマ)

河野教諭が5年生の社会科の授業で使用するために写真上の物を先輩から借用してきたと言い、持参しました。私と澁谷副校長は当然知っており、「昔、家のお手伝いとして、よく削っていた。」「カンナの逆さまのような形で、削れなくなると金槌で叩いて刃を出した。」など、昔話を若手の教員にしていました。多くの若手は当然ですが、見たこともないのでイメージできずにポカンとしていました。写真の物は、「鯉節削り器」です。まだ、販売はしていますが、昔はどの家庭にも一つはありました。真空パックに入った鯉節の需要とともに減ってきた気がします。

小学校3年生の社会科で「生活の道具のへん化」という単元があり、例えば洗濯機では、「100年前:たらい、洗濯板」「50年前:二層式電気洗濯機」「現在:全自動洗濯乾燥機」が写真付きで説明がされています。私が小学校の頃、祖母は汚れがひどいものは、たらいに水をはり、洗濯石鹸と洗濯板で予洗をしてから、写真下の一層式の洗濯機に入れて、最後は洗濯機の横についているローラーの間を通して水分を取ったことを覚えています。タオルは水木しげるさんのマンガに出てくる、一反木綿のようになるのがおもしろくて、遊んでいました。今昭和ブームが到来していますが、令和もしばらくたつと同じように「令和の時代は…」となるのかもしれませんが。

職員室は、色々な学年が教材について話したり、指導方法の改善について相談し合ったりする、クリエイティブな空間です。若手が話している時に、経験のある教員が助言する場面

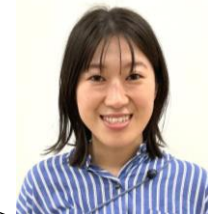
面もよく見かけます。澁谷副校長や等々力教頭は特に相談窓口なので、自分の経験や管理職としての立場から積極的に会話に入っています。

私が教育委員会時代に学校の雰囲気を知るために特に参考になったのが、玄関の靴箱の整頓状況と職員室での先生方の会話でした。靴箱が乱雑な学校は生活の規律が乱れている傾向がありました。職員室での笑顔や明るい会話、子どもたちの自慢話がない学校は、覇気がなく教育活動が沈滞化していました。

帝京大学小学校は、手前味噌にはなりますが、どちらもしっかりとできていると思っています。

## 職員室の窓

1年生もすっかり学校生活に慣れて、元気いっぱい頑張っています。先日、道徳で挨拶について考えました。「挨拶をしないのも、適当にするのもよくないね」という意見から、「もっと心を入れて挨拶しよう!」と考えた1年生は、さっそく色々な人へ「いつもありがとう!」と声をかけていました。前向きな子どもたちから、元気をもらっています。



《教諭 石川 真衣》



《教諭 長谷川 椋》

運動会練習が始まり、2年生はフルパワーで活動しています。学年種目の勝利のカギは「きれいな整列」を意識すること。あらためて日常の整列はどうだったか学級で振り返りました。残り一カ月でどこまで素早くきれいな整列が出来るか、各クラスの団結力が試されます。行事を通して、さらに大きく成長できるよう全力で取り組んでいきます。